

学び合いを通してよりよい消費生活について考え実践する子ども

— 小学6年「上手な買い物の仕方を考えよう」の実践から —

1 授業の構想

(1) 子どものとらえについて

修学旅行のおこづかい計画を立て、「お金の使い方を考えよう」の学習で、金銭の大切さ、限りあるお金を有効に使うための計画の必要性を考えた後、修学旅行をふりかえった子どもの発言である。

修学旅行に行ってみて、お金を計画的に使うことの大切さが分かりました。計画表どおりにはいかなかったんだけど、計画表のおかげで、お金を使う見通しが持てて、上手に買い物ができました。お父さん、お母さんのおかげだし本当に楽しい修学旅行になりました。また、お金を使うときには計画的に使っていきたいです。 (児童A)

あらゆるものに囲まれ、物質的に豊かな時代を生きる子どもたち。物や金銭の大切さをあまり実感することなく生活することができる。中には、おこづかいなどの限られた金銭を有効に使う姿勢もみられるものの、必要なものは必要なときに手に入る環境で生活している子どもが多い。よって、日常的に金銭を計画的に利用するという経験は少ない。しかし、修学旅行での経験は、児童Aのように、計画を立てることで無駄なく、目的に応じて金銭を有効に使うための見通しが持てることのよさや、家族の労働の収入のおかげで金銭を得ているという大切さを実感することができた。子どもたちからは、このように、目的に応じた買い物をするために、自分で立てた計画を活用し、工夫する姿が見られた。

しかし、購入の際にどのような視点で商品を選んでいるかといえば、金額や数量が中心で、品質に目を向けることはほとんどない。これまでの学習や経験によって得た計画的に利用するよさや、金額や数量に着目する視点に、調理実習の食材の買い方を考える学習を通して、品質などに着目して商品を選択する視点を加えることで、目的に応じた、よりよい買い物をすることができるようになり、主体的に判断し、行動できる消費者としての第一歩を踏み出して欲しいと願っている。本題材の学習を通して自らの生活をよりよくしようと課題を見いだしながら、追求していく姿を大切にしていきたいと考えている。

(2) 本題材の目標や内容と技術・家庭科で考える思考力・判断力・表現力の育成との関わりについて

本題材では、目的に応じて、値段や数量、品質などの情報を適切に集め、多面的な視点を導き出し、それを商品選択の判断材料として買い物ができるようにすることをねらいとしている。

技術・家庭科では、思考力・判断力・表現力を「よりよい生活を工夫し創造する力」の育成ととらえている。学習したことが実際の生活で生きて働く力となるためには、将来にわたって変化し続ける社会に主体的に対応し、生活を営む上で生じる課題に対して、自分なりに判断して課題を解決することができる能力が必要である。課題に対して様々な角度から考える思考力、その思考力を総合して解決を図る判断力、判断した結果を的確に創造的に示すことのできる表現力等が考えられる。これらの力の育成には、自らが課題を発見し、習得した知識及び技術を活用して、意欲をもって解決のための方策を追求する学習や活動等を、発達段階に応じて繰り返し行っていくことが大切であると考えられる。

本題材の「上手な買い物の仕方考える」学習において、調理実習の食材の購入を通して、ものを購入する際に目的に応じてどのような視点で商品を選択し、購入するかを検討して課題を発見していく。その中で子どもたちが商品を選ぶ時の視点を広げ、よりよい買い物の仕方を追求させていきたい。そして、よりよい生活を工夫し創造する力を育てていきたい。

(3) 11年間で育てる思考力・判断力・表現力の育成に関する学び合う場面の構想について

技術・家庭科は、子どもたちの家庭や学校での生活が追求の対象の教科である。よって、11年間を通して、生活をより豊かにするために、生活の中から課題を見出し、自分の知識や技術を活用して課題を

解決する力を身につけさせたいと考えている。また、6年生は中等部に属しているの、初等部後期である5年生よりも、より主体的に生活に関わる中で、課題を発見し、学んだことを活かして豊かな生活を工夫し、創造する力を育成していきたい。そして、中学校では、課題解決のためのより多くの具体的な知識技能を身につけ、それをを用いて実際の生活に活かし、豊かな生活を工夫し、創造し、実践していく姿をめざしていきたいと考える。そのために、以下のように学び合う場面を構想していく。

①実際に金銭を利用する場面とリンクさせながら、題材を構成する。

日常生活への実践につなげるためにも、実際に金銭を利用する場面とリンクさせて、単元の構成を行う。1つ目の場面は、修学旅行である。本校の修学旅行では、昼食や観光場所の入場料、お土産など子どもたち一人ひとりが金銭を支払う場面が多く、限られたおこづかいの中で計画的に活用する必要がある。計画的に物を購入するよさを実感したり、使い方を考えたり、工夫したりすることを経験できる場である。加えて、遊園地でのミールクーポンの利用は、現金以外で支払う方法を体験するよい機会であり、金銭と同等の価値があり、使い方への配慮を考慮することができる。

また、子どもたちに日常生活での金銭の利用の場面を聞いてみると、“おつかい”の場面が一番多い。よって、2つ目の場面として、調理実習の食材の購入を設定した。調理実習の食材の購入は、日常生活においても“おつかい”とつながる場面であり、このような実践を通して、日常生活をより意識することができるようにしたい。

②調理実習の食材の購入を通して、自分たちの課題を見出し、家族や栄養士さんの食材の購入を視点とした取材から、多面的な視点で購入するよさについて考えを出し合う場面を設定する。

まず、1回目の購入で、子どもたちに普段のおつかいのように買い物をさせ、商品のどんな情報を見て購入したかふりかえる。これは、商品の情報をほとんど見ずに購入している現実を把握させるためである。そこから、家族や栄養士さんからの聞き取りを行い、家族や栄養士さんと自分たちの食品選択の視点を比較し、購入の課題を見出せるようにする。そして、購入の視点を広げるはたらきかけとして、商品を改めて見ることで、様々な情報が記されていることや、購入の際に重要である情報を話し合うことで、値段だけでなく、安全性や栄養面などの情報を得ることで、より目的に応じた適切な商品選択、購入についての考えを深めさせるようにする。そして、2回目の購入では、1回目と購入した商品が同じだとしても、安全性や栄養面も把握した上で、購入の視点をしぼるはたらきかけを通して、総合的に判断し、商品を選択し、購入できるようにする。また、よりよい買い物の仕方を考える際には、商品選択の視点をカード化して示すなど、話し合いの視点を明確にし、意識させていき、意見や考えを整理していく手立てとしたい。

2 展開計画

次	主な学習	時	具体的な学習・内容（◇印は、学級全体の学び合いの場面）
1	お金の使い方を考えよう	1	<ul style="list-style-type: none"> 物を計画的に購入することのよさを話し合う。 ◇お金の大切さや、情報を集めながら計画的に購入するよさについて話し合うことで、その必要性について自分の考えを深めていく。
		2	<ul style="list-style-type: none"> 様々な購入方法や支払い方法について知る。
2	上手な買い物の仕方を考えよう	3	<ul style="list-style-type: none"> 調理実習の食材の買い出しに行き、どのように選んだかまとめる。 ◇食材の買い出しに行き、どのように食材を選んで購入したかまとめ、班ごとに発表し合う中で、自分たちの購入の際の課題を見出していく。（各家庭で食材を購入する際の選択の視点を聞き取り調査をする。）
		4	<ul style="list-style-type: none"> 家族の購入の視点を話し合い、購入の際の食材選択の視点を広げる。
		5	<ul style="list-style-type: none"> 品質などの表示の種類や意味について調べる。
		6	<ul style="list-style-type: none"> 栄養士さんの給食の食材の買い物の視点を聞く。 ◇栄養士さんの給食に対する思いや、食材購入の視点を聞き、何のために、どのような視点で買い物をすることが、上手な買い物につながるか話し合い、自分の考えを深める。

		7 8	・調理実習の買い出しを行い、前回の食材の購入の視点との違いや変化をまとめ、子どもたちのそれぞれの生活の中でどのように買い物の視点を活かしていくか考える
--	--	--------	---

3 学び合いによる思考力・判断力・表現力の評価

題材における学び合いの場面で、子どもたちの思考の変容を授業記録からとらえた。さらに、ワークシートの記述内容から、評価規準をもとに、教師によるはたらきかけや、題材構成などが学び合いの場面でどのように思考力・判断力・表現力の高まりに反映されたか分析していった。

技術・家庭科における思考力・判断力・表現力は、観点別評価項目における「工夫し創造する力」である。そこで、以下のように評価基準を設定した。

時	学習活動	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準		
				A	B	C
1	物を計画的に購入することのよさを話し合う。	金銭を計画的に使う良さに気づき、これからの生活に活かそうとしている。	ワークシート発表	修学旅行の金銭の使い方の良かった点や改善点を具体的に挙げ、金銭を計画的に使うよさに気づき、これからの生活に活かそうとしている。	金銭を計画的に使うよさに気づき、これからの生活に活かそうとしている。	金銭を計画的に使うよさを見出すことができない。
3	調理実習の食材の買い出しに行き、どのように選んだかまとめる。	食材の購入を通して、買い物における課題を見出している。	ワークシート発表	買い物における課題を見出し、解決に向けて見通しをもつことができる。	買い物における課題を見出すことができる。	買い物における課題を見出すことができない。
6	栄養士さんの給食に対する思いや、食材購入の視点を聞き、何のために、どのような視点で買い物をするかが、上手な買い物につながるか話し合い、自分の考えを深める。	目的に応じた買い物をするために、様々な商品選択の視点からより適切にものを選び、買い物の仕方を考えようとしている。	ワークシート発表	自分を含めた家族や、友だちの健康や安全を考えながら、目的に応じた、値段や品質など多面的な視点をもち、買い物の仕方を考えている。	商品の情報を得て、安全や健康を考えながら、買い物の仕方を考えている。	買い物の目的や思いがあいまいで、買い物の視点が限定的である。

4 授業の実際

1時、2時を経て、子どもたちがこれまでの買い物の経験から得た課題を解決するために、家族の人への聞き取り調査や、調べ学習から得た上手な買い物をするための要素をどのようにつなぎ合わせていくかという学習の場を学び合いの場面をここでは取り上げる。

○上手な買い物をするためにポイントとなる要素をどのようにつなぎ合わせていくか

(1) 学び合いまでの過程 第2次3～5時まで

まず、子どもたちの自分がものを購入するときの課題について、それを明確にするために、調理実習で使う食品の買い出しを行った。購入する商品と、金額のめやすのみを設定し、グループに分かれ学校近くのスーパーへ買い物に行った。



買い物から帰り、どのような視点で商品を買ったかふり返ると、6班中1班は、食品を選択する際に、賞味期限や原材料にも着目して食品を選択しているが、残り5班は、食品の見た目や値段、数量のみを見て購入した。購入に要した時間も3分程度でとても早く買い物を終えた。

1回目の買い物をふり返る中で、同じ商品を購入したのに、商品に記載されている賞味期限が異なることに気がついた。

児童A：うちの班は、賞味期限や原材料を見て買いました。

T1：賞味期限が書いてあるんだ。どこに書いてあった。みんなも見て見ようか。

児童B：先生！うちの班、他の班より賞味期限が早いんですけど・・・。

児童C：うわ～失敗した～

児童D：そんなところ見てなかった！先生！いつ調理実習するんですか？

T2：まだすぐにはしないなあ。

児童D：もう一回買いに行ってもいいんですか？私たち、作れるんですか？

児童aの班の買い物の視点から、T1の「みんなのも見てみようか」という提案は、他の班に買い物の視点を広げるきっかけとなったと共に、自分たちの課題を改めて明確にしていくのに有効であった。

た。「そんなところ見てなかった」という発言から、各班が商品の隅々を見る姿が見られた。1回目の買い物の活動を通して、子どもたちは、「普段の買い物の時に、一部の情報しか見ていない」「商品には、購入を検討するための様々な情報が載っている」ことに気付いた。また多くの情報を見て購入していた班のふりかえりを聞く中で自分たちの商品の購入の課題を改めて明確に持ち、どうしたらよりよい買い物ができるか追求していこうとする意欲が高まった。これが、子どもたちの買い物についての視点を広げるはたらきかけへとつながった。

今日はハムを買いに行きました。4班のみんなは、原材料とか賞味期限とか見てすごい！と思いました。私の班は裏返しにせずに、値段と量を見ただけだったので、次気をつけるのと、お母さんに聞いて勉強したいです。(児童E)

(2) 学び合いの実際 第2次6時

1回目の買い物を受けて、E児のふりかえりにもあるように、「お母さんに聞いて勉強したい」というところから、子どもたちの買い物の視点を広げるために、家族への聞き取り調査を行おうという提案をした。家族への聞き取り調査を行うことで、普段の何気ない買い物の中でも家族の人が食品の様々な情報を確認しながら買い物をやっていることが分かった。さらに、様々な買い物の視点の中で、言葉は知っているが意味がよく分からないものについて、調べ学習を行い、知識を蓄えていった。

買い物の視点を広げていった子どもたちだが、それをどのように実際の買い物場面で活かしていけばよいか、考えていく必要がある。そこで、本校の栄養士さんに学校給食における食材の買い物のプロとして、食品選択・購入の視点や、その思いを聞くことを通して、これまで得た買い物の視点をどのようにつなげていくか考えていった。以下、第2次6時の話し合う場面の一部授業記録である。

T1：栄養士さんにたくさんの視点を出してもらったね。栄養士さんのお話から、買い物のコツってなんだろう？

児童A：「安全」、「安心」、「安い」が大切だと思います。

T2：その理由は？

児童A：食べる方も作る方も害がなくていいし、安心感がもてていい。

児童F：ぼくは、ランキングを作ってみたんだけど、1位が「安全」2位が「バランス」3位が「安さ」です。「安全」は消費期限切れは安くてもお腹をこわしたりしたらいけないから、大切だと思います。「バランス」は、生活習慣病になったりしたらいけないし、生活バランスが崩れてもいけないから大切だと思います。「安さ」は、高すぎてもいけないから大切だと思います。

児童G：AくんやBくんと同じように、「安全」、「安い」、「バランス」、そして「新しい」ということも大切だと思います。

児童H：「安全」で「安心」なものは見ないと分からないので，“よく見る”ことが大切だと思いました。

児童I：“聞く”ことも大切だと思います。お店の人に商品の詳細を聞いて買うことも必要だと思います。

T3：みんなに共通して言えることは、「安心」「安全」「安さ」というのが大切ということだね。どれか一つだけ満たされていても、いい買い物とは言えないということだね。また、「安心」や「安全」かどうかしっかり“見て”“聞く”ことも大切買い物をするときには必要ということだね。

児童A：気をつけることが3つ4つあるので、どれに何%かけるか見るんじゃなくて、(どれが重要だということではなく)全体的にバランスを見る。こういうバランスも買い物のコツなんじゃないかと思います。

子どもたちはこれまでの学習の中で、多くの買い物の視点を得てきた。話し合いの場面でもあるように、大きな要素としては、「安全」(賞味期限・添加物など)「安心」(産地・食品マーク)「安さ」についてキーワードとして着目させた。その要素をつなぎ合わせ、総合的に考えながら、判断することが実際の買い物の場面では必要となる力である。そのような力を育むために、実際の授業場面での教師のはたらきかけとして、T1では、子どものこれまでに広がった視点を買い物の場面でどのようにしていけばよいか、実際に自分の実態に合わせてその広がった視点をつなげたり、絞ったりしていく方向へと子どもの意識を向けるための有効なゆさぶりとなった。児童Aの発言から、これらの要素について着目しているか確かめることができたが、そのように考えた理由を引き出したいと考えた。そこで、T2「その理由は」と問いかけ、子どもの発言を掘り下げることにより、児童Fのランキングを作り、自分の中で大切にしたい視点を意味づけ、どのように自分で判断し実践に活かしていくか明らかになった。さらに、その発言を聞いた児童Aが「安心」「安全」「安さ」について、バランスよく見て買い物をしたいというように、どのように買い物をしていきたいか具体的な考えを持つに至ることができた。

(3) 学び合いにおける思考力・判断力・表現力の評価

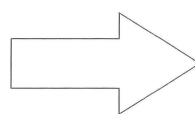
学び合いにおける思考力・判断力・表現力の評価については、ワークシートの記述や授業での発言によって行った。1回目の購入から、第6時までの子どもたちの買い物の視点についての評価を、「A：目的意識を持ったり、理由を述べたりしながら多面的な視点で買い物の仕方を考えている」「B：1回目の購入から視点が広がり、多面的な視点で買い物の仕方を考えている」「C：限定的な視点で買い物の仕方を考えている」とした。学び合いまでの段階では、全体的に購入の視点の広がりが見えたものの、目的意識や理由をしっかりと述べるまでには至っていない。しかし、第6時を見てみると、全児童がAまたはBとなり、栄養士さんのお話や、学級全体での話し合いを通して、買い物についての視点を広げ、

第5時終了時の評価	A	B	C
1回目購入から第6時まで	6名	18名	2名
第6時での評価	18名	7名	0名

さらに目的に応じて自分や家族のことを考えながら買い物の仕方について考えることができるようになった。以下に示すのは、第6時までの評価がCまたはBの児童の変容を具体的に示す。

<第6時までの児童の記述>

児童J
値段が安くて、量が多い物を選ぶ。
(評価B)
児童K
記述なし(評価C)



<第6時での児童の記述>

児童J
国産で(安全や安心を考えて)安いものを買う。(評価A)
児童K
これからは、値段が安いのか、賞味期限が長いのかを見て買いたいです。
(評価A)

5 成果と課題

2回目の買い物を終えた児童のふりかえりである。

今回は2回目の買い物で、1回目はぜんぜん賞味期限とか意識していなかったけど、商品の裏を見て買ったら、㊟が書いてあってなるほどと思いました。原材料など見るだけでもとても安心します。買い物が楽しくなりました。

学習を通してこれまで自分の中になかった買い物の視点を得ることができ、さらに、その視点からこれから何を意識して購入していけばよいか考えることができた子どもは、買い物をするのが楽しいと述べるまでに至った。これまで自分の中に無かった視点をマル秘と表し、これから子どもたちは商品の一部ではなく、様々な情報を集めながら、目的に応じたよりよい買い物をしていってくれるのではないかと大きな期待している。

○日常生活における自分たちの課題の把握 ～実際の買い物をを通して～

“上手な買い物の仕方を考える”時に、自分たちの買い物についての課題を明確にする必要がある。子どもたちは頻繁ではないにしてもこれまでの生活の中で買い物の経験を積んできている。また、日々様々なメディアを通して、“食”に関する多くの情報を得ており、例えば「地産地消」、「食品添加物」「賞味期限」などの言葉や、特定栄養機能食品などの食品の機能や安全を示すマークの存在など、ものを購入するときにポイントとなる要素についても知っている。よって、学習の中で、「上手な買い物をするためには、何を見て買えばよいか」という問いを投げかければ、これら多くの答えが返ってくるであろう。しかし、子どもたちの課題は、このような知識が実際の生活の場に活かさせていなかったり実践されていなかったりすることである。1回目の実際の買い物場面の設定は、子どもたちの自らの課題をつかませ、課題を追求しようとする意欲を持たせるのに大変有効であった。実際の生活場面から課題を見出していく家庭科の学習において、今後も大切にしていきたい視点である。

○話し合いを通してこれまでに「広げて」きた知識や考えを「しぼる」

学び合いの場として設定した学級全体での話し合いを、子どもたちがこれまでに広げてきた知識や考えをしぼる場として考えた。上述したように、子どもたちは、買い物に対して、多くの知識や考えを持っている。「国産」「添加物」「賞味期限」「マーク」「値段」など商品を購入する際の視点は数多くある。しかし、「国産」であれば値段を気にせずどんな高いものでも買えばよいというわけではない。目的に応じて、自分に合ったよりよい買い物をするためには、これらの視点を多面的に見ながら、総合的に判断する必要がある。よって、これまでの学習を通して、得た知識や考えをつなぎ、目的に応じて買い物をしようとする姿に高めることができたのは、学び合いの場面で広がった考えを前述したT1のしぼるはたらきかけが有効に作用したからではないかと考える。さらに、多くある視点の中から、キーワードとして「安全」「安心」「安さ」を示し、着目させることで、話し合いの視点をしぼり、より活発な学び合いが言われたのではないかと考える。今後も生活の創意工夫や家庭での実践につなげるための題材の構想やはたらきかけを考えていきたい。

○評価について

本題材における思考力・判断力・表現力の評価を、ワークシートや授業での発言によって行った。評価基準については、すでに示した通りである。ワークシートや発言による評価を通して、そこに書かれているまたは言葉として発せられたものにどのような思いが込められているか教師が適切にとらえるためにも、子どもたちに問いなおしたり、分析したりする重要性を改めて感じた。たとえば、ワークシートに「買い物の時に考えたいことは値段です」と書いた児童は、本当に値段しか見ないということなのか、または、安全な商品か見た上での“値段”なのかは、大きな違いがある。教師のはたらきかけや発問、ワークシートなど、工夫し、子どもの考えが適切に表現できるようにさらに考えていきたい。

(文責 竹吉 昭人)